

初志をいつまでも忘れず
行動し続けます。



西宮市議会議員

田中まさたけ

市政・市議会報告

<http://www.masatake.jp/>

第4次総合計画（今後10年間の西宮市政の基本方針）が決定

前号で、平成21年度から進められる第4次総合計画の策定作業が大詰めを迎えていることをご報告しました。そして、先般行われた12月議会において、総合計画基本構想案が（基本計画案とセットで）、市から提案され、審議が行われました。

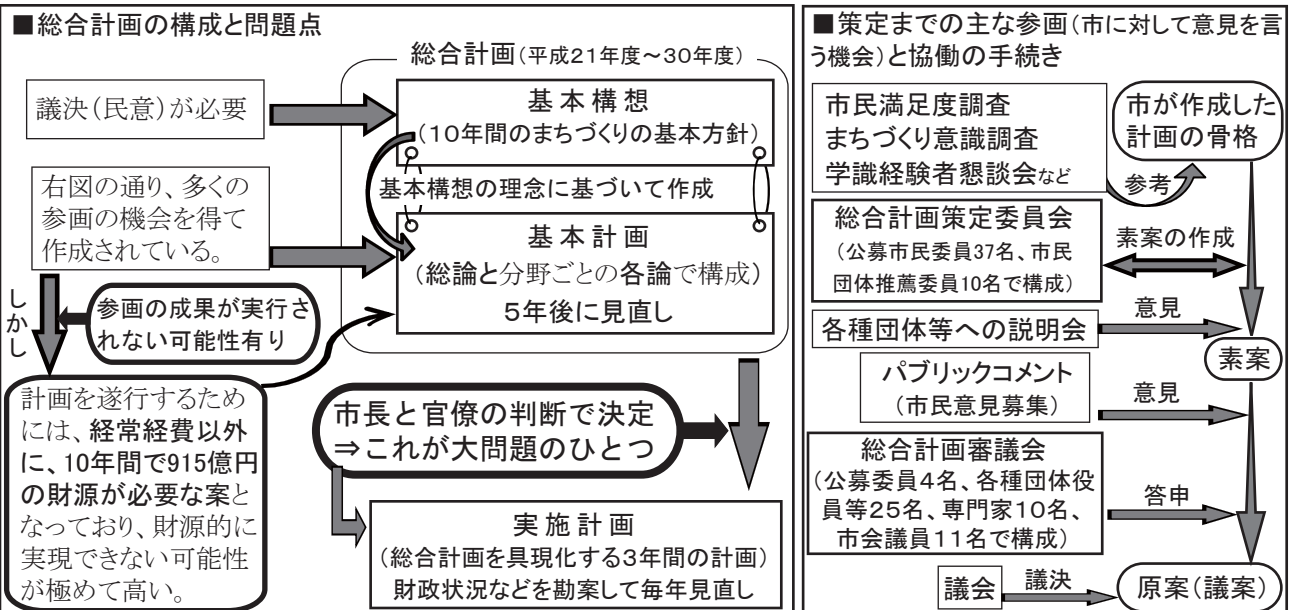
総合計画の構成と問題点を、左下図で示しました。最大の問題点は、計画の遂行にかかる財源の見通しが楽観的過ぎることでした。今後10年間、名目GDPが毎年1.5%ずつ増加するという現実離れした名目経済成長率を仮定して税收等を計算し、財政の枠組みを設定して

います。また、経常経費以外に10年間で915億円の財源を充当する内容の基本計画の各論が示されました。これも、経常収支比率100%前後の状態が今後も続くと思われる本市の財政構造に、昨今の経済状況を加味すると、実現の可能性が低いことは明らかです。そして、財源が確保できなかった際には、施策や事業に優先順位をつけながら実行していく旨も計画に明記されています。しかし、肝心の優先順位のつけ方のルール・基準は記載されていません。右下図の通り、これまで多数の参画を得て基本計

画を策定してきたにもかかわらず、最終のところは、「行政のさじ加減ひとつ」という部分を残しています。

このように、今後10年間の基本方針を定める大事な計画にもかかわらず、市民に説明がつかない部分が多く残されるなど一層の議論の必要性を確信しました。ですので、本会議で継続審議を動議しましたが、反対多数で否決されました。そして、市が提案した原案に対して、私は反対をしましたが、賛成多数で可決されました。

詳細は、ホームページに掲載しますので、ご参照下さい。



中面：12月議会に行った一般質問の概要を掲載しています

一般質問報告

12月議会で一般質問を行い、「夢はぐむ教育のまち西宮」「成熟社会における交通政策」をテーマとして取り上げました。主張と質問内容、市の回答の概要をご報告します。



質問項目

- (1) 子どもたちの夢をはぐくむ学校について
 - ア 連合体育大会
 - ・リニューアル工事による中断への対応
 - ・工事終了後の再開についての課題
 - イ 複数志願選抜導入初年度の進路指導
- (2) 成熟社会における交通政策のあり方について
 - ア 交通安全対策
 - ・道路行政のあり方
 - ・歩行者の安全性の向上
 - ・自転車交通に関する政策
 - イ 公共交通の利便性の向上
 - ウ 総合的な交通計画の策定

■「夢をはぐくむ教育のまち西宮」の実態は…

本市の教育委員会が、教育活動を紹介するために発行しているリーフレットは、「夢をはぐくむ教育のまち西宮」と題しています。今回は、具体的なケースを取り上げ、標語ばかりではなく、子どもたちのために実態が伴った取り組みを進めるべきであるという観点で質問を行いました。

●中学校連合体育大会について

今回も甲子園球場のリニューアル工事に伴い、突如中断されている小学校・中学校の各連合体育大会の対応について取り上げました。かの有名な甲子園球場で行われる体育を通じた共同作業や競技が、生徒たちにもたらす教育的効果は、情操教育の観点からも大変重要です。工事が3年に及ぶことから、今年中学三年生となる約3000人の子どもたちは、中学校連合体育大会を一度も経験することなく義務教育を終えてしまうことになります。平成21年度の暫定的な開催に向けての甲子園球場との交渉と市内部での検討の内容を質問し明らかにしました。

今年度の工事がスムーズに進めば、11月9日～11日であれば可能と、球場側は協力の姿勢を示してくれました。しかしながら、これまで

毎年10月末に開催してきたにもかかわらず、11月は合唱コンクールなどの行事が集中していることや例年の開催時期より日没が早くなることなどを理由に、市内の全中学校長先生で構成される「校長会」で、平成21年度の実施が困難と判断したとのことでした。あっさりとあきらめてしまう校長会の態度は、子どもたちの夢をはぐくむ態度とは思えません。標語ばかりが先行したお役所仕事が目立ちました。引き続き、平成21年度の暫定開催など誠実な対応を求めました。

また、工事終了後も、この11月中旬ごろでなければできない可能性が高くなり、平成22年度以降の連合体育大会の再開も困難になるのではないかと危惧されます。平成22年度以降の開催についても質問し、小・中各連合体育大会を再開すべきであると主張しました。

●複数志願制度導入初年度の進路指導について

ある中学校での進路指導において、市民からの問い合わせを受け、至急調査した結果、あろうことか現場の担当者が入試制度を誤って理解し、不適切な進路指導が行われていた事実が発覚しました。今回の事故発覚後の、その学校と他の学

校への対応を質問しました。当中学校においては、保護者の問い合わせによって、進路説明会などにおいて対応ができました。その他の学校でも同様の不安が残されているものの、進路指導担当者会で改めて指導の徹底を図るなどの対応がすでになされたとのことでした。

学びたい学校を選べる制度、子どもたちの夢を育む制度とするべく、努力が求められるところが、制度の信用すらを失いかねない重大な問題です。このような初歩的なミスによる事故は言語道断ですが、最後の最後まで、そのほかにも不適切な進路指導が行われないよう念入りの指導を改めて要望しました。



■12月13日神戸新聞朝刊で取り上げられました。

■成熟社会における交通政策のあり方の追求を

「成熟社会」とは、ある辞書によると、量的拡大を追求する経済成長が終息に向かう中で、精神的豊かさや生活の質の向上を重視する平和で自由な社会と定義されています。これからは、従来の拡大型のまちづくりの発想を本格的に転換し、成熟社会でのまちづくりについて議論を深めなければならない時期にあると考えています。そこで今回は、まちづくりの主要な要素の一つである交通政策を取り上げました。

●交通安全対策について

・道路行政のあり方

～安全性の確保のために計画的な補修と財源の確保を～

道路補修の現状を下表に示しました。舗装工事は、年間約4億円～4

億4000万円で横ばいとなっております。しかし、補修面積は全体の1%に満たず、このペースでは100年かかる計算になります。既存道路の修繕については、現在は、市による道路パトロールや住民からの通報によって対応しています。およそ10年と言われるアスファルトの耐用年数と、震災で多くを更新したことを考慮すると、この経費は、数年のうちに、現在の10倍に膨らむ可能性もあると考えられます。財政上の理由で放置しておく、舗装の劣化による凹凸やマンホールの浮き沈みに起因した事故、周辺への振動被害のなどが頻発することも想定されます。ですので、生活道路までも含めた対応が欠かせないと思われます。細切れの対応による非効率性も軽視できません。道路占用料などの土

木使用料を補修費用に充当するために積み立てておくなど、計画的に将来の財政負担の備えを進めるべきと考えています。今回は、生活道路までも含めた道路の維持補修財源の見込みと財源確保の取り組みを質問しました。

現在は、橋梁の対策に乗り出しており、今回の主張を受けて、橋梁以外の道路の維持補修計画も策定し、必要な財源の確保に努めていく旨の前向きな回答を得ました。



■近年の道路補修の状況 (仮に工事請負費が10倍に膨れ上がると、舗装工事だけでも財政を逼迫する可能性を秘めています)

	道路橋梁維持関係経費			舗装補修面積 (㎡)	全体面積 (㎡)	補修率 (A/B×100)
	全体額	うち業務委託	うち工事請負 (うち舗装工事)			
平成17年度	6億7200万円	2億2900万円	3億9500万円 (2億300万円)	47,744	7,173,355	0.66%
平成18年度	6億9500万円	2億3200万円	4億2000万円 (2億400万円)	48,804	7,217,259	0.68%
平成19年度	7億2200万円	2億4800万円	4億3600万円 (2億2200万円)	56,990	7,270,008	0.78%

・歩行者の安全性の向上

～住民と進める体制の整備を～

高齢化だけではなく、ベビーカーや子どもを乗せた自転車の通行なども増加している本市においては、生活道路での歩行空間の確保、バリアフリー化は喫緊の課題です。財政的な事情等により長期的な課題となっている危険箇所は特に、リストアップするなどして、地域住民と情報を共有し、協働して抜本的解決に向けた取

り組みを進める体制を構築すべきであると主張した結果、前向きな回答を得ることができました。

・自転車交通に関する政策

～将来需要や整備効果等を検証しながら、効果的な取組を～

自転車の適正利用を促す総合的な自転車政策と呼べるものはありません。駐輪場整備だけでも、目先の放置自転車対策に終始し、これまでの整備効果等を検証することもあり

ません。今回の質問で、将来需要を予測した整備計画すらないことも明らかとなり、場当たりの行政運営の姿勢が露呈しました。

●総合的な交通計画の策定の必要性について

～計画策定を通じて、交通政策の議論を深め、場当たりの対応を改めるべき～

※質問の内容と結果、その他の項目の概要については、お手数ですが、表面の連絡先までご連絡下さい。

★「場当たりの行政運営、事業のやりっ放し、政策なき事業の推進」が、最近特に目立ってきています。これらの「お役所仕事」は、これまでも多くの財政的なツケを残してきました。そしてあとになって、そのツケを払わされるのは、いつの時代も私たち市民です。そうした事態を避けるために、今のうちから徹底して改善を促す必要があります。

現在、不良債務(累積赤字)の解消を最大の目標として、平成18年度から5年間の予定で第2次経営健全化計画を実施しています。この計画には、サービス向上策と経費削減のための効率化策が盛り込まれています。

しかし、医療制度改革や医師不足の影響もあり、利用者数の見込みが大きく減少し、赤字が膨れ上がる見込みとなりました。そこで、12月議会

において、市からの補助金を大幅に増額する内容の補正予算案が市より提出されました。(内容は下表)

「西宮市立中央病院あり方検討委員会」が昨年3月に、今後の中央病院のあるべき姿・方針を盛り込んだ答申(※1)を提出しています。その内容を具現化した取り組みの予定とその実施年限などを3月の予算審議の際に明らかにするよう求めたうえで賛成しました。

比較的、医療機関に恵まれた環境にある本市において、中央病院に対してのみ税金を投入する意義について、説明責任が果たされていません。言わば「税金の垂れ流し」の状態であり、これ以上現在の取り組みを容認できない状態となっています。改めて抜本的な対応を提言してまいります。

(※1) 答申の内容に関する資料をご希望の方は、お手数ですが下記までご連絡下さい。

		補正前	⇒	補正後	増額
中央病院事業会計補助経費合計		17億900万円	⇒	25億500万円	7億9600万円
内 訳	補助金・負担金	6億8200万円	⇒	9億9800万円	3億1600万円
	出資金(建物改修や設備更新にかかる経費)	1億8900万円	⇒	1億8900万円	0
	長期貸付金	3800万円	⇒	5億1800万円	4億8000万円
	短期貸付金	8億円	⇒	8億円	0

市政報告・意見交換会を行っています

～お問い合わせ・お申し込みは下記の連絡先までお願いします～

早朝の駅頭・街頭での活動や会合・勉強会において、市政に関するご意見を伺うことが多く、皆さんが何かと市政に対するご意見をお持ちであることを実感しています。そして、「別途市政に関する報告会・意見交換会を開くべきだ」といったご意見を頂くようになり、形式

や人数を問わず、市政報告・意見交換会の出前を行っています。そして、既存の会合や勉強会に呼んで頂き、市政報告をする機会を頂いています。

当方で日程や議題・会場を決めて集まって頂くよりも、皆さんの関心に合わせた議題やご都合に合

わせて行い、自由な意見交換を行うことで、議論の内容を深めたいと考えています。

ご協力いただける方は、封書・電話・FAX・E-mailのいずれかの方法で是非ともご連絡下さい。日程や場所、議題を調整させていただきます。

議員インターンシップ～主に学生さんを対象にした活動です～

若者の政治離れに歯止めをかける一助となればと考え、政治の現場を体験したいという学生を中心に、インターン生(研修生)を受け入れています。インターン生には、一定の期間を区切って、私の議員活動を中心に体験してもらっています。インターンシップを経験した人が、終了後も政治に目を向け続け、政策を自分に関係あることとして捉え、日常の何気ない会話でも話題にするようになれば、必ず政治はよくなる、私はそう確信しています。

現在、春休みの期間を活用したインターン生を受け付けています。活動内容を紹介した資料も用意していますので、お気軽にご連絡下さい。

ご意見ご要望・お問い合わせは、

〒662-0854 西宮市櫛塚町1-14 光永ビル3階

TEL&FAX 0798-22-5172

E-mail ■ nishinomiya@masatake.jp

～プロフィール～

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所にて4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(現在2期目) ■現在の担当委員会:厚生常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)